

令和2年度かかりつけ医等**発達障害**対応力向上研修

気になる親子へのかかりつけ医の支援 ～ 発達障害への気づきと支援のポイント2. ～

- ・アセスメントに基づいた支援：
早期支援の実際

浜松市発達医療総合福祉センター
平野 浩一



1. 家族支援の意義

- 本人支援とともに養育者である家族を支援することが症状の重篤化や二次障害の予防に有効
 - 発達障害者支援法での位置づけ
 - 厚生労働省の支援体制
- 早期からの家族支援の有効性
 - 効果
 - 発達促進や、行動障害や非行などの予防効果に関するエビデンス
 - 親の抑うつやメンタルヘルスの改善

本人支援に行きつくためには、まず親の理解、そのためにも早期の家族支援が必要



2. 幼児期の親への支援

1. 気づき段階での支援

困難に寄り添い共感することから発達相談へ

2. 診断前後の支援

地域の療育支援情報提供や親同士の支え合い

3. 障害特性の理解に基づいた具体的な支援

ペアレント・トレーニングなど

4. 就学に対する支援

就学相談やペアレントメンターによるピアサポートの充実



気づき段階での 親の心理状態

「気づき」のきっかけ

- 集団場面の様子を見て
- さまざまな子ども同士のトラブル
- 教師や他者からの指摘
- きょうだいとの比較など

「遅れへの気づき」と不安

- 遅れに対する否定
- 相談機関や受診を勧める人に対する否定の気持ち
- だれに相談したらよいのか
- 相談することは遅れを認めることになる
- 他の家族からのストレス

保健師・保育士・幼稚園教師など身近にいる人が親の気持ちにより添いながらまずは専門相談へとつなげることが重要



園でできる気づきへの支援

- 「診断」からではなく「支援」からアプローチする
- 担任任せにせず管理職をいれたチームで対応する
- 親の否定を強めている要因を話し合う
- 親からの話を傾聴する
- 行事などでの事前の配慮などを親と話し、きっかけ作りをする
- 巡回相談を活用する
- 保健師や支援センターとの連携を行なう
- 相談機関につなぐ
- 保護者に困難性があるケース（虐待リスクなど）については地域の外部機関を交えたネットワークを活用する



エビデンス:効果の実証された心理的介入法

包括型

- 構造型 (TEACCH)
- 応用行動分析 (ABA):
Applied Behavior Analysis)
- DTT (Discrete Trial Training)
- PRT (Pivotal Response Training)
- ESDM (Early Start Denver Model)

標的スキル獲得型

- PECS (Picture Exchange Communication System)
- ソーシャルスキルトレーニング
- 認知行動療法:感情制御 (不安や怒り)
- YASPER (Joint Attention Symbolic Play, Engagement, and Regulation)
- Social Thinking
- PEERSプログラム
- ペアレントトレーニング

Lai M-C.et al m2014を改変)



早期発見・早期支援のメリット

- 疑い後、早期(できれば3歳以前)に支援を開始
- 家族の価値観や家庭状況を考慮して支援法を検討
- 早期支援のメリット
 - 社会性、言語発達が成長する
 - 情緒・行動の自己調整力がつく
 - 家族や自身による特性理解(長所・短所)が深まる
 - 家族のメンタルヘルスやQOLが向上する

最重要課題は2次的な問題の予防

療育中の子どもと家族を支えるために かかりつけ医にお願いしたいこと

- 療育に対して様々なとらえ方がある
 - 拒否的な親
 - 支援者との関係を築くのが苦手な親
 - すぐに結果を求めてしまう親
 - 将来の不安を抱え療育効果にすがろうとする親
- どの親も子どものためを思って頑張ろうとしている
- その親の“努力を認める”ことから相談が始まる
- 「不適切な養育」の裏には「不安」が隠されていることが多い
- 不適切な養育行動は抑制されるべきでも、そうせざるを得ない感情・気持ちには理解を示し、寄り添うことで信頼関係が生じる

気づきの後、保護者への 情報提供や養育上の助言

発達障がいには、発達遅滞の人が多く、発達障害の
2つのタイプには、平均的な発達の1.5倍ほど
遅れている人が多く、1.5倍遅れている人が
多くいるという傾向があります。そのため、遅れが
顕著な場合は、遅れが顕著な発達遅滞が
原因である可能性があります。遅れが顕著な
場合は、遅れが顕著な発達遅滞が原因である
可能性があります。遅れが顕著な場合は、遅れ
が顕著な発達遅滞が原因である可能性があります。

発達遅滞の人は、遅れが顕著な発達遅滞が原因
である可能性があります。遅れが顕著な場合は、
遅れが顕著な発達遅滞が原因である可能性
があります。遅れが顕著な場合は、遅れが
顕著な発達遅滞が原因である可能性があります。

発達遅滞の人は、遅れが顕著な発達遅滞が原因
である可能性があります。遅れが顕著な場合は、
遅れが顕著な発達遅滞が原因である可能性
があります。遅れが顕著な場合は、遅れが
顕著な発達遅滞が原因である可能性があります。

1歳を過ぎる子どもをもつ
保護者の方へ

- 0歳後半、11~12カ月、15~17カ月の平均的な発達の目安
- ワンポイントアドバイス

0歳後半
大人より少しだけ遅い程度に遅れ、おどろきがあります。

- 目や口の動き
- 身体を動かす動き
- アイコンタクト
- 言葉の理解
- 言葉の発音
- 物や音に対する反応

11か月~12か月
おどろきや目を合わせる平均的な発達目安を
目安として、遅れが顕著な場合があります。

- 大人の話や声かけに反応する
- 大人の話や声かけに反応する
- 大人の話や声かけに反応する
- 大人の話や声かけに反応する
- 大人の話や声かけに反応する

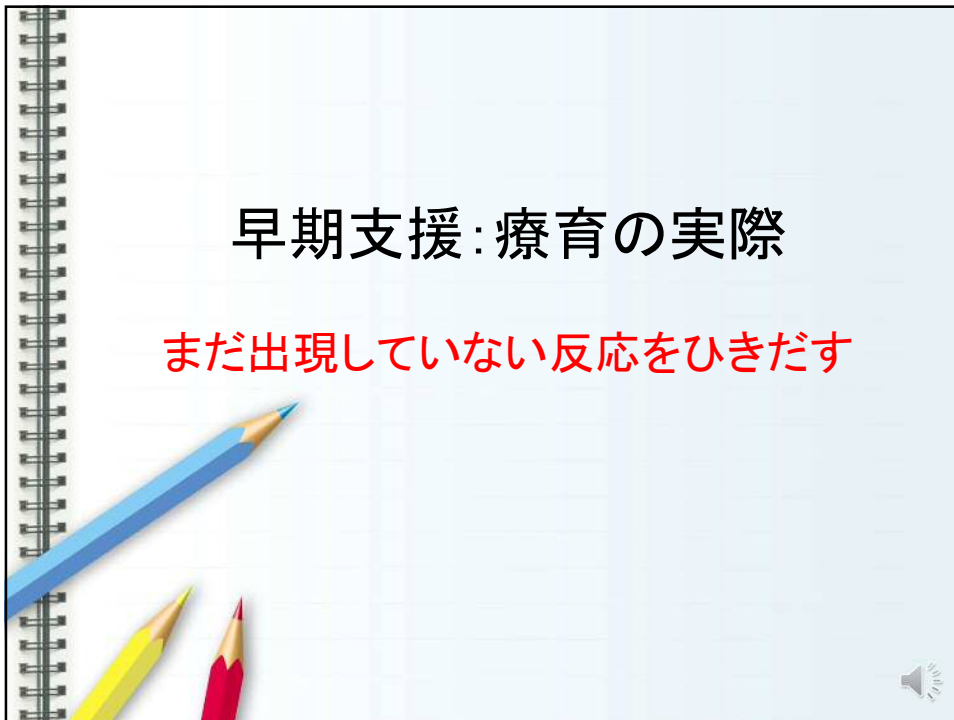
15か月~17か月
コミュニケーションの発達目安がますます遅れに
なっています。

- 言葉があるものを指し示してあげる
- 大人の話や声かけに反応する
- 大人の話や声かけに反応する
- 大人の話や声かけに反応する
- 大人の話や声かけに反応する

(国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 児童・思春期精神保健研究部 作成)
<http://www.ncnp.go.jp/nimh/jidou/research/research.html>

早期支援：療育の実際

まだ出現していない反応をひきだす



「呼名反応」をひきだす工夫

遊びながら、さりげなく「○○ちゃん」と呼びかけてみましょう。子どもは呼んだ人の方をしっかりとみますね。

呼びかけに振り向いたり、目を合わせたり

することで、「呼びかけに気づいたよ。なあに？」

という合図を大人に送り、コミュニケーションを

始めようとしているのです。

ほかのことに夢中になっていたりすると、呼んでも振り向かないことがあるかもしれません。そんなときは、少し待ってからもう一度声をかけてあげましょう。

(国立障害者リハビリテーションセンター
発達障害情報・支援センターHP)から



「模倣」を引き出す遊びの工夫

子どもが興味をもちそうな、なじみがあるおもちゃを用意してあげましょう。車や飛行機のミニチュア、動物のぬいぐるみ、おもちゃの電話機やコップなどがいいでしょう。

子どもと向かいあって遊びながら、

車を「ブーブー」といいながら動かすのをみせてから、子どもに車を渡すと、子どもは喜んで同じようにして遊ぶでしょう。

また、コップで「ゴクゴク」と音を立てて飲むふりや、電話の受話器を耳に当てて「もしもし」と話すふりをしてみてもいいでしょう。子どもが喜ぶようないろいろな動作をしてあげましょう。

(国立障害者リハビリテーションセンター
発達障害情報・支援センターHP)



「指さし」を引き出す遊びの工夫

まだ十分にことばが話せない子どもは、「欲しい」と思ったり、「こんなおもしろいものがあった」と思ったりしたときに、なんとかして大人に自分の思いを伝えようとして指さしをします。まずは、子どもが好むものや興味をもつものが何なのかをわかってあげることが大切です。子どもの好みのおもちゃや**興味があるものを使って遊んであげると、指さしが自然とたくさん出てきます。**

ときには、好みのおもちゃとそうでないおもちゃを2つみせて、どちらが欲しいのか、**指さして選ばせてもいい**でしょう。

大人がシャボン玉を吹いて遊んであげたりすると、子どもはとても興味を引かれて、伝えるための指さしが出てくる人が多いようです。

(国立障害者リハビリテーションセンター
発達障害情報・支援センターHP) から



「ごっこ遊び」を引き出す遊びの工夫

人形やぬいぐるみ、食べ物のミニチュア、お皿、コップ、ティーポット、フォーク、ナイフなどを用意して、おやつパーティを開いてあげましょう。

子どもは、それらのおもちゃを見ると、自分がいつもしてもらっていることを自然に思い出して、ごっこ遊びを始めることでしょう。

たとえば、**人形やぬいぐるみに食べ物を食べさせたり**、大人に食べ物や飲み物を差し出したりするごっこ遊びが気に入るかもしれません。そのほか、おもちゃの受話器をもって電話で話しているふりをしたり、おもちゃのフライパンで料理するふりをしたりするのもいいでしょう。

男の子は、おもちゃの車や飛行機に人形を乗せるなどして遊ぶのが好きかもしれません。女の子は、ぬいぐるみや人形の着せ替えをしたりして遊ぶのが好きなのではないでしょうか。

(国立障害者リハビリテーションセンター
発達障害情報・支援センターHP) から



生後12～36か月のASD乳幼児への包括的早期介入法→48～60か月まで継続

Early Start Denver Model アーリースタートデンバーモデル

ESDM-Japan

アーリースタートデンバーモデル (ESDM) は自閉症の包括的早期介入法です。

ホーム | ESDMとは | 認定セラピストになるには | 試みワークショップ | セッパサービス | ESDM-Japanについて | 書籍/文献



アーリースタートデンバーモデル (ESDM) は、2歳前に関連できず5歳までの介入治療プログラムとしてエビデンスが証明されたABAを基本とする介入治療プログラムです。ESDMは、現在、自閉症の幼児に対するRCTによる臨床効果のエビデンスが認められている最早期介入プログラムとして世界で最も広く知られています。このエビデンスにより、アメリカでは5歳以下の子どもへの治療的介入プログラムを巧く円滑化する（多くの自閉症の子ども達に届けること）ため、この年代の子ども達へ

<http://esdm-japan.main.jp/>

ESDM (Early Start Denver Model) 1

子どもの興味を捜す: よく観察、対面で、心地よい距離で
余計なものを排除: 目移りするものは隠す。

整頓整理、おもちゃ箱から1つ1つだして遊ぶ

主役にさせる: 邪魔にならぬよう遊びに入って簡単な言葉で
コメントやナレーション

(解説者のように、役者のようにおおげさに)

手助けする(電源いれる、蓋をあける、お代わりを上げる)

子どもの真似をする

笑顔を見つける: 子どもの**笑顔と笑いを増やすこと**により人と関わるのが楽しいことを教える

ふり遊びなどを **大げさに、効果音つけて**子どもの笑顔を捜しながら

関わり遊びの中で対等のパートナーになる

ESDM (Early Start Denver Model) 2

言葉で話すよりも体で話す大切さ: 非言語コミュニケーションは言葉の基礎:

アイコンタクト、ジェスチャー: メッセージに気づけるように機会を多く

真似をする力: 子どもの真似をすることで子どもも親(他者)を真似て学んでいく

ナレーションしながら真似る: アイコンタクトと笑顔を忘れずに!

真似しやすいように大きさに表現

忍耐: 要求・手助けなどサインが出るまでは時間がかかります。あせらずゆっくり



ESDM (Early Start Denver Model) 3

(共同注視、三角関係)

指さし: 生活のなかでたくさん指さしをしてみせる

→指さしの先に何か情報があると理解させる

(一緒に遊ぶ時間では)

親子の遊びの中でたくさんの遊びの機会を作り、一人遊びを手助けする

言葉へと繋げる

話し掛ける: ナレーション: 子どもの能力の少しだけ上の言葉: 単語レベルなら2語まで

子どもの行動に音をつける: 「よいしょ」「ばいばい»: 音・行動を同期



まとめ

- ASDの早期徴候(=対人コミュニケーション行動が少ない/弱い)のある子どもはフォローが必要です。
- しかし、発達には個人差があり、ある時期の一度だけの観察・評価で診断・可能性の断定には慎重さが必要です。
- 単に「様子を見ましょう」の指示ではなく、まだ出現していない行動を引き出すための工夫やかかわり方への助言をしてください。
- 保護者は日常的に困っていることが多いので、保護者のニーズを知る工夫が必要です。
- 保護者のニーズにあわせて、子育て支援、発達支援サービス(初期療育含め)、あるいは専門医療機関への繋ぎ、紹介をお願いします。



参考文献

- 第14回発達障害地域包括支援研修:早期支援:国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所:2019 より
- 神尾陽子:「発達障害のある児の早期発見と早期支援の意義」
- 原口英之「自閉症スペクトラムの早期徴候のアセスメント」
- 井上雅彦「発達障害のある児の親支援と早期支援」

